

議会だより のだ

ホームページ <http://www.vill.noda.iwate.jp/>
Eメール gikai_jimukyoku@vill.noda.iwate.jp

2018
11/9
第145号



9月8日、玉川保育所で運動会が行われました。保護者がカメラを片手に見守る中、園児たちは組体操などを行い、立派な姿を披露しました。

平成30年9月 第13回定例会

主なもの

9月定例会の概要 - P 2~

一般質問 5人が登壇 - P 6~11

議案採決一覧 - P 12

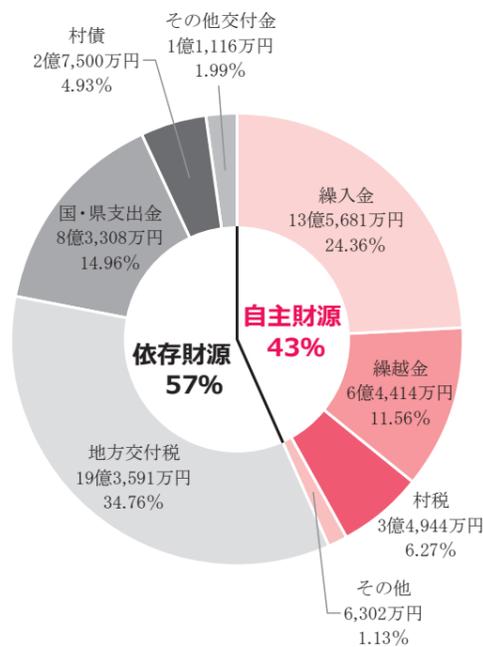
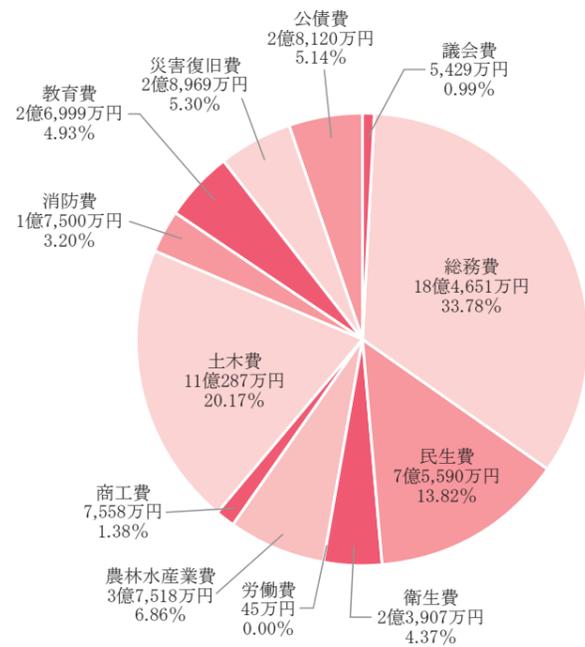
追跡レポート - P 13

29年度の財政状況を公開します

9月
定例会

歳出（村から出ていくお金）
総額 54億 6,573万円

歳入（村に入ってくるお金）
総額 56億 6,856万円



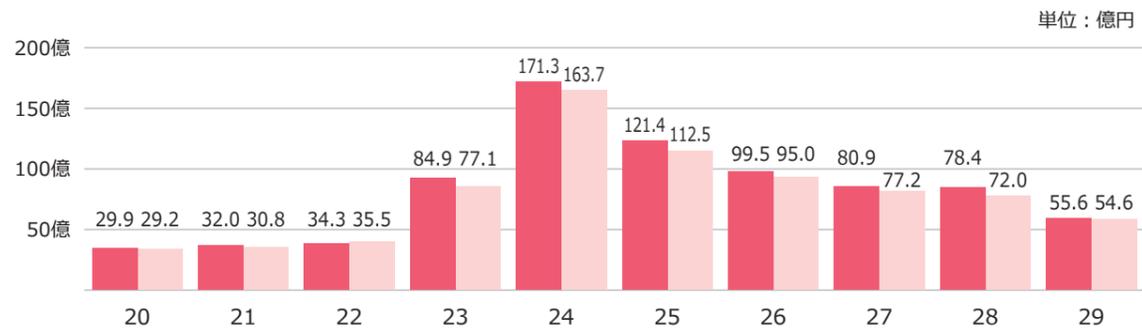
平成29年度決算を認定

各会計の決算状況

会計	歳入 歳出	【予算現額】	【決算額】
		歳入 歳出	59億8,769万4,000円
国民健康保険 事業特別会計	歳入 歳出	7億3,489万2,000円	7億6,218万4,519円 6億6,544万8,091円
後期高齢者 医療特別会計	歳入 歳出	3,969万9,000円	3,881万1,948円 3,854万9,250円
農業集落排水 事業特別会計	歳入 歳出	5,130万8,000円	5,139万26円 4,701万200円
漁業集落排水 事業特別会計	歳入 歳出	7,631万1,000円	8,370万3,744円 5,556万7,912円
公共下水道 事業特別会計	歳入 歳出	6億1,398万4,000円	3億4,773万6,784円 2億6,953万4,840円
簡易水道事業 特別会計	歳入 歳出	2億1,148万5,000円	1億9,493万9,022円 1億7,387万29円
国民宿舎事業 特別会計	歳入 歳出	972万4,000円	941万9,669円 920万6,235円

第13回・9月定例会は9月5日から13日までの9日間を会期として開会されました。議案審議は、一般・特別会計の補正予算のほか、平成29年度野田村一般会計歳入歳出決算認定など計13件を慎重審議の結果、全て原案のとおり可決しました。一般質問では、5人が登壇し、村政に対して鋭く切り込みました。

過去10年の推移



用語解説

実質収支比率
…実質収支の額の適否を判断する指標。正の数であれば黒字、負の数であれば赤字となる。

実質公債費比率
…公債費による財政負担の程度を示す指標（収入に対する負債の返済割合）

経常収支比率
…財政構造の弾力性を判断するための指標。比率が大きいほど弾力性が大きいことを示す。

将来負担比率
…将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標。

平成29年度一般・特別会計決算は、施政方針に掲げられた項目の実現に向けて各種事業が実施され、事務事業は概ね適正に処理されており、各会計とも経費節減に努め、健全財政を維持すべく努力していることが概ね認められた。

一般会計では実質収支比率は8.4%、実質公債費比率は6.9%で、どちらも望ましいとされる数値を維持している。経常収支比率は88.4%で、財政指標の数値として望ましいとされる比率より高く推移しているものの、将来負担比率が0%以下となっていることから、震災復興事業費の財政構造への影響は大きくはないと考えられる。

今後とも「収支の均衡」「財政構造の健全性」「行政水準の確保向上」に留意しながら、「東日本大震災津波復興計画」に基づき、住民の生活再建のため渾身の力を傾注することを強く期待する。



代表監査委員
中村 司



監査委員
岩岡 吉比古

概ね適正に処理
今後も生活再建に傾注を

補正予算

一般会計では、歳入歳出にそれぞれ3億618万9千円を増額し、総額は44億4649万8千円としました。

歳入では、震災復興特別交付税1億9134万4千円などを増額し、歳出では、日向保育所用地造成事業1千万円、公共下水道事業特別会計繰出金6250万円、庁舎キュービクル等災害復旧事業1億9134万4千円などをそれぞれ増額しました。



庁舎キュービクル

特別会計では、国民健康保険事業特別会計、公共下水道事業特別会計、国民宿舍事業特別会計でそれぞれ予算が補正されました。

問 八幡委員

文化財保護委託料の予算補正が今の時期となった理由は。

答 教育次長

専門知識を有する職員がおらず、県に専門調査員の派遣を依頼していたが、調整が難航した。



住宅建築や工事への影響が懸念されます

問 米田忠一委員

日向保育所用地造成事業の規模と今後の予定は。

答 住民福祉課長

規模は、園舎が木造平屋建てで約400㎡、園庭や駐車場なども含めた敷地の合計面積は約2,800㎡となる。本年度中に用地造成を終え、31年度中に建物や園庭等の整備を行いたいと考えている。



現在の日向保育所

決算特別委員会

平成29年度の決算について、議長を除く11名で構成された決算特別委員会（宇部武典委員長）において審議しました。

答 総務課長

利用しやすい時刻との声があり、時刻表もバス停ごとに見やすいよう努力している。公共交通は10人が10人いいようにというのは難しいが、今後も検証していく。

問 米田忠一委員

村税の不納欠損額が昨年度より増加しているが、債権として残すことはできなかったのか。

答 税務課長

地方税法の規定により執行停止していたもので、停止中でも納税は可能だが、3年経過すると納税義務は消滅する。

問 米田忠一委員

村営バス運営事業をどのように評価しているか。

答 特定課題対策課長

村内事業所の若手独身社員を対象にアンケートを実施



利便性のさらなる向上を望みます

問 米田徳一郎委員

結婚支援に関わって、村内で若者が集うイベントが少ないため、新しい事業を生み出していく考えはないか。

答 特定課題対策課長

村内事業所の若手独身社員を対象にアンケートを実施

問 山田委員

健康運動教室事業の対象は被災者のみだが、枠を広げる考えは。

答 住民福祉課長

震災復興に関わる財源であるため被災者を対象としている。方策を検討する必要はあるが、早急な対応は難しい。

問 山田委員

はまなす再生プロジェクト事業の進捗状況は。

答 産業振興課長

29年度までは商工会の事業として調査研究してきたが、30年度は村の事業としてはまなすの景観再生とローズヒップティーの特産品化を大きなテーマとして取り組んでいく。

私学教育の充実発展に向け

陳情採択

総務教民常任委員会（八幡文耕委員長）は陳情1件を採択し、発議案として議会に提出、全員賛成で可決され、国及び県へ意見書を提出しました。

私学助成の充実を求める意見書

私立学校は、公教育の一翼を担い学校教育の充実、発展に寄与しています。現在、私立学校の経営基盤は、厳しい環境におかれており、保護者の学費負担は家計を大きく圧迫しています。また、生徒、一人当たりにかかる教育費が公立学校に比べて低いことが、教育諸条件が改善されない大きな要因になっています。こうした状況の中、教育条件の維持、向上と保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、私立学校の経営の健全化に資するため、運営費をはじめとする公費助成の一層の充実が求められています。よって、このような実情を勘案し、私学助成について特段の配慮をされるよう次のとおり要望いたします。

過疎地域の私立高校に対する特別助成の増額を含め、私学助成金をさらに充実することを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

平成30年9月13日

岩手県野田村議会議長

衆議院議長 様
参議院議長 様
内閣総理大臣 様
財務大臣 様
文部科学大臣 様
岩手県知事 様

答 地域整備課長

津波防災緑地であり、抜本的な工事は難しいが、パークゴルフイベントで村外の方も利用している状況を踏まえると、場所を選んで排水処理工事していく必要があると感じている。



はまなすの景観再生が待ち遠しいです

問 米田徳一郎委員

村内で荒海ホタテを買いえない状況ではないか。地元消費の拡大が観光客の誘致にもつながると思うが、村の取り組みは。

答 産業振興課長

村内の魚屋などの店頭で販売されるよう働きかけていきたい。

問 米田忠一委員

アジア民族造形館の今後の維持管理をどのように考えているか。

答 教育次長

総合戦略に関わるプロジェクトチームや昨年度提携した大阪大学の学生らと活用方法を検討している。



パークゴルフを目的に多くの方が訪れています



米田 忠一 議員

自主防災組織の必要性を問う

村長 多くの地域で取り組んでほしい



住民と行政が一体となって防災に取り組む必要があります

村長 昨今の災害は、これまでの経験が通用しないことが多発していることから行政だけでは対応しきれないことが予想されるため、行政と一緒に自主防災に取り組むよう説明したところである。多様化する災害を考慮すれば、多くの地域で取り組みを進めることが望ましいと考えている。

問 村づくり懇談会の際、本村の自主防災組織の数は管内で一番少ないと聞いたが、どの程度組織化している必要があると認識しているか。

村長 以前提案があった際は、既存事業者を圧迫することは避けたいとの思いから、慎重に進めたいと答

問 以前、十府ヶ浦公園などの管理を念頭にシルバー人材センター的な組織の整備を提案した際、既存事業者の保護などの理由から組織の整備については、消極的だったと認識しているが、今もその考えに変わりはしないか。

シルバー人材センターの活用は

村長 今後、消防団と自主防災組織とタイアップできること、それぞれの組織でできることなどを協議していく中でより良い方向を見出していきたい。

問 今後、どのくらいの地域で組織化が進むかわからないが、自主防災組織と消防団との役割分担など、丁寧なすり合わせが必要と考



村シルバースポーツ大会のようす

えた。しかし、既存事業者だけでは対応できない・しきれない部分もあると聞いている。その一方では、高齢者の方々の中で、社会貢献や社会奉仕をしたいという方も増えているため、高齢者の生きがい対策や社会福祉の向上のため、今後、労働の提供者とサービスの提供を受けた人とのマッチングを図る仕組みを検討したい。

問 自己所有地に仮設店舗を建設した事業者は、いつまで現状のまま事業継続できるのか。

仮設店舗入居事業者の事業継続は



引き続き本設再建に向けた支援を望みます

村長 村として本設再建を基本に支援してきた。自主再建した事業者との負担の公平性から無償での譲渡は考えていない。

問 仮設店舗は国から村が無償で譲渡されたものであり、事業者の所有地に建設されたものはそのまま無償で譲渡してよいと考えるが、村長の考えは。

村長 引き続き事業を継続することを前提に、自主再建した事業者との負担の公平性の確保と事業者の負担に十分配慮した金額で譲渡交渉を重ねているところである。

「村政を問う」

～ 一般質問 5人が登壇 ～

◆ 米田 忠一 議員 (7ページ) — 自主防災組織の必要性を問う —

その他の質問

- ・自主防災組織について
- ・シルバー人材センターについて
- ・仮設店舗の運用に関して
- ・中学校教員の勤務時間に関して
- ・郷土芸能の伝承について

◆ 米田 徳一郎 議員 (8ページ) — 県北横断自動車道の新設を —

その他の質問

- ・むらづくり懇談会(村長と語る会)について
- ・職員の震災復興完遂後の体制等について
- ・台風10号による災害復旧状況について
- ・介護施設の現状と課題について

◆ 古舘 幹 男 議員 (9ページ) — 豪雨災害対策として植樹の考えは —

その他の質問

- ・原木しいたけ用樹の植林について

◆ 山田 陽子 議員 (10ページ) — 住民懇談会の関心度低下が問題化 —

その他の質問

- ・自治会について
- ・玉川館公園周辺の環境整備について
- ・広報誌について
- ・学校施設等におけるブロック塀等の安全点検等状況調査
- ・中学校の部活動の指導者について

◆ 宇部 武典 議員 (11ページ) — 仮設店舗の供用継続の考えは —

その他の質問

- ・東日本大震災大津波からの復興の取り組みに関して
- ・国民健康保険事業の広域化に関わって
- ・子どもの医療費無料化政策の拡充に関して
- ・久慈工業高校を守り育てる会の運動に関わって
- ・防災・減災対策に関する問題について

※本号掲載以外の質問に関しては村HPをご覧ください

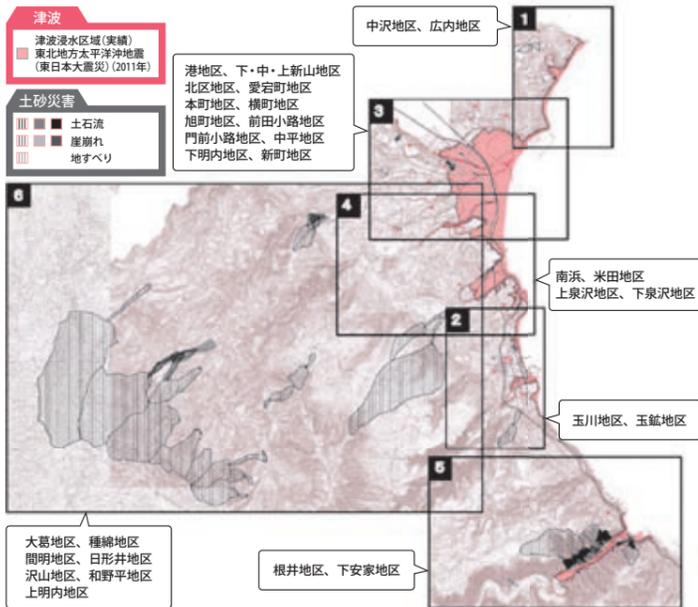
<http://www.vill.noda.iwate.jp/>



古館 幹男 議員

豪雨災害対策として植樹の考えは

村長 適切な森林施業を促進していく



村のハザードマップ (一部抜粋)

問 東日本大震災からの復旧・復興が進み、落ち着いた生活を取り戻しつつある中で、いつ起こるか分からない集中豪雨被害を防ぐための取り組みを考えていく必要があると考える。

先の西日本豪雨災害の状況を見ると針葉樹の森が土砂とともに流出し、災害の規模を大きくしているように感じたことから、今後は広葉樹の植樹を進めるべきと考えるが村長の考えは。

村長 森林が持つ公益的機能の一つに山地災害防止機能がある。この機能を十分に発揮させるために針葉樹、広葉樹に関わらず人工林の適切な間伐などにより林床を十分に明るくし、下層植生とともに樹木の根が広く発達した土壌を保持できるような管理していくことが重要である。伐採後に発生する林地残材は大雨の際に下流に被害を及ぼす恐れがあるため適切に搬出するなど対処が必要である。



森林の適切な管理を求めます

問 森林組合などの機関と話し合いを行われているか。また、山間部の林道などによっては被害の出やすい路線もあり、現状復旧だけでなく、あらかじめ被害を防ぐ手立てを考えてはどうか。

村長 森林整備は森林組合と協議しながら進めていく考えである。林道整備は山の適切な管理のため、専門的な見地から意見を聞きながら進めていく。



しいたけの原木

村長 東日本大震災大津波の原発事故による放射能汚染により、原木の供給不足や価格高騰を招き、生産者の減少や生産規模の縮小につながっている。また、普代村の村有林へのナラ類の植林を行っていることは承知している。現時点で村有林の伐採は予定していないが、伐採を行った後の樹種の一つとしてナラ類の植林を検討する。

問 震災以降、しいたけ用原木の値上がりなどにより栽培を辞める方が出ている。普代村では、公有林にしいたけ用原木としてナラの木を植林していると聞いたが、本村でも実施する考えはあるか。

しいたけ生産者への
支援望む



米田 徳一郎 議員

県北横断自動車道の新設を

村長 関係団体と連携し要望活動進める



整備に向けて強く要望していきます

問 盛岡市までの90分構想は、県北地域に産業、観光振興に大きな役割を果たすと共に災害時の復興支援の道としても必要と考えるが、事業化に向けた取り組みは。

村長 本年8月に関係する2市2町2村の首長で「北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会」第一回設立準備委員会を開催したところである。現在、同盟会設立に向け鋭意準備しており、関係市町村の他、各市町村議会と商工団体へ同盟会への参加を依頼している。今後は同盟会設立総会を経て事業計画に基づき、

関係団体と連携を図り要望活動を進めていきたい。

安家川付近の災害復旧の進捗状況は

問 安家川の河川復旧と県道安家線の河川と道路の工事概要は。また、流木対策としての貯木場等の設置や道路の幅員、道路高等の改良状況は。

村長 一般県道安家玉川線では8ヶ所の災害復旧工事を合冊して発注、復旧延長約4,055メートルをコンクリートブロック積工、もたれ式擁壁工、舗装工等で施工し、現在も早期完成に向け工事が進んでいる。



いまなお復旧工事が進められています

貯木場の設置は計画されていないが、漁港、漁場への影響を少なくするため河川内の流木を可能な限り処理すると聞いている。道路の幅員や道路高等の改良工事は原型復旧が基本であり含まれていない。

問 介護施設や在宅介護の内容や実態、団塊世代が入所時期を迎える時期の入所見込みと施設の充足率をどのように分析し今後取り組んでいくのか。

村長 本年3月末時点での管内の待機者は248人、

介護支援対策の現状と今後の取り組みを問う

うち47人は早期入所が必要な方である。施設整備は認知症対応型共同介護施設が2ヶ所、介護老人福祉施設が1ヶ所であり、待機者の解消に一定の効果があると考えている。

村の在宅介護の実態は5月末時点で一戸被保険者数が1,535人、要介護認定者数は295人で、うち167人が在宅サービス利用者である。支援内容は居宅介護支援事業所と地域包括支援センターのケアマネージャーが随時訪問し、必要としているサービスとの結びつけを行っていることを認識している。

団塊世代の入所見込みと施設の充足は65歳以上の人口が平成37年度には20,266人、人口488人の増、高齢化率5.9%の上昇が推計され、要介護者の認定数も4,021人で339人の増が見込まれている。特別養護老人ホームの入所対象となる要介護3以上に限れば、92人増の1,468人となる。入所対象者の増加に対する施設整備は住民や事業者の意向を聞き、総合的に判断する。



宇部 武典 議員

仮設店舗の供用継続の考えは

村長 本年度末で供用は終了としたい

問 国保事業の広域化に伴う国保税の所得区分別の分布状況は。また、激変緩和措置の効果は。

国保事業広域化による現状を問う

村長 県では継続実施は検討中とのことであるため、決定した場合は速やかに周知したい。

問 県では被災者の医療費・介護保険利用料の免除制度を平成31年度も継続実施するようだが、村の対応は。

村長 現在入居中の事業者は今後も本設再建のめどがないとのこと、仮に撤去費等助成が延長されたとしても、本年度末をもって仮設店舗としての供用は終了する考えだ。

問 本年度末で仮設店舗の役割を終えるとのことだが、国では仮設店舗解体費等援助事業を平成32年度まで継続すると聞いた。村でも仮設店舗の供用を平成32年度まで継続してはどうか。



山田 陽子 議員

住民懇談会の関心度低下が問題化

村長 さらに工夫し課題や要望に耳を傾ける

問 住民懇談会の各地域の参加率と関心度を高めるための対策は。

村長 村内16か所で開催し218名が参加した。最も参加率の高い地区は「広内地区」の92・3%、最も低い地区は「城内地区」で4・6%で、全体では27・64%であり、村内全世帯数の3割が参加している。村民がさらに関心を持って参加するよう工夫を凝らし各地域の課題や要望に耳を傾け、ともに村づくりを進めていきたい。

問 参加者が減少し、また、若い世代も参加できない状況である。開催日時なども含めて分析する必要があるのでは。

村長 若い世代が参加できない工夫と原因などをさまざまな方から意見を聞き、地域の意向など把握しながら進めていく。

問 主要な要望や課題の内容は。

村長 道路の整備・修繕や草刈の対応依頼、河川の河

道掘削などの要望等が出された。

問 主に地域整備課の所管のようだが、点検日を設けたり、電話での対応など工夫してはどうか。

村長 相談や情報を気軽にできる体制を考える。

問 自由懇談の内容は。

村長 自主防災組織に係る村の支援内容や補助制度のほか、村が気付かない道路の痛みや支障木の情報などが出された。

問 自由懇談で、公共施設の申請予約の円滑化の意見要望があり、早急に対応したようだが、対象施設が総合センターと学習センターのみで、スポーツ施設等は検討しなかったのか。

教育長 検討していない。

問 公共施設の予約申請は総合センターと学習センターのみ年間を通して利用する場合3か月まで予約が可能ですか。

問 住民懇談会の際、自治会からの脱退を村でどのよ

問 県内市町村では来月8月には医療費の窓口負担無料化（現物給付）が小学校まで拡充されるようだ。さ

子ども医療費の窓口負担無料化の早期実現を

村長 一般会計からの法定外繰り入れは段階的に解消すべきとされているが、保険給付費にかかる一部負担金免除分等に対応するため今年度においても一般会計からの繰り入れを継続実施する。

問 一般会計などからの繰り入れは、税の負担軽減につながっているのか。

村長 国保世帯数707世帯、課税総額1億40万6千円、428世帯60・5%が減額、277世帯39・1%が増額となった。税額の分布状況は、3万円までが233世帯33%、3万円〜10万円までが172世帯24%、10万円〜30万円までが209世帯29%、30万円以上が93世帯14%となっている。激変緩和措置は該当にならないかった。



久慈工業高校を守り育てる会のようす

うに考えているか問題提起がありました。これは各地域での当番・役割等が回ってきてもそれを遂行できなくなつたため、悩んだ末に自治会から脱退しようとしたケースなどが挙げられるが、全国的にも問題視されており、今後、自治会の存在を根底から問い直す問題提起と考えるが、村長の見解は。

村長 地域の中で互いに支え合う意識を持つことが重要で、高齢化等により出来ない部分については、地域の中で配慮していくことのできるような問題はいくらか解決に向かうものと期待している。

問 地域の特性により想定される災害は異なり、それに対する具体的な避難等を想定し、地域ごとに住民と村とが問題の共有化が必要ではないか。

村長 災害の種類により具体的な避難路等も違うため、ハザードマップ等を参考に地域と行政、消防機関等と一緒に計画を作り上げていく考えである。

らに中学校までの拡充をめざす住民運動も始まっているようだが、どのように受けとめているか。

村長 県内市町村の動向を注視しながら、引き続き県に要望していきたい。

久慈工業高校存続のため今後の運動の視点を問う

問 久慈工業高校を守り育てる会の運動に関わり、今後、地域に貢献する人材を増やす課題と35人学級を求める課題も加えてはどうか。

館公園周辺を観光のため整備する考えは

問 玉川館公園周辺の環境整備について、東日本震災以前から、海岸線の流木やごみの撤去に苦慮しており、以前はサーフィンに来る観光客も多くいた。この一帯を観光スポットとして活用できるよう整備を図る考えはないか。

村長 抜本的な改良は難しいが、運搬車を通れるようにできないか検討を始めている。



美しい自然を守っていく必要があります

その他の質問
・広報のだの掲載企画について
・通学路のブロック塀の安全点検状況調査について

村長 久慈工業高校を守り育てる会の運動としてはもちろん、県内市町村長とも連携して運動してまいります。

自主防災組織結成に向けて指導援助が必要

問 個々の具体的な状況に対応する自主防災組織の結成と機能の強化に向けた指導援助が求められているが、村の対応は。

村長 住民懇談会のあと複数の地区から結成の打診がめいた。防災土育成講習会には2名派遣する。



防災訓練での土のうづくりのようす

追跡レポート

あの問題 どうなりました？

問

防火水槽の整備を計画的に進め、地域の安心度を高めるべきでは。
(H29.3 定例会・予算特別委員会)

答

消防団と協議しながら計画的に整備していく。

港地区に整備することとなりました。

工事が進められている現地のようす(右)



- 港地区 -

役場方面

漁港方面

コトバ解説

防火水槽

地下にある消火用の水を溜めた水槽のことです。
水槽に溜めた水をポンプで吸い上げて消火に利用します。



多発する豪雨災害等に向けて整備が急がれます(図はイメージ)

問

廣内議員 建屋の地上高は宇部川の水位と比較してもっと高くする必要はないか。

答

地域整備課長 宇部川の河川計画に基づき設計しており、最高水位から見て建屋に影響はない。

8月臨時会は8月22日に行われ、一般会計補正予算、財産の取得、工事請負契約の議決の計3件について、審議が行われ、全て可決されました。

8月臨時会

宇部川排水区ポンプ場
整備に向けて

採決一覧表

○…賛成 ×…反対
※議長は採決に参加しない。

会議	議案番号	議案内容	宇部武典	岩岡吉比古	古館幹男	八幡文耕	山田陽子	内野澤進	米田徳一郎	米田忠一	小野寺光男	中川大和	廣内和之	貳又正人	結果
臨時12回	議案第1号	平成30年度野田村一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	議案第2号	財産の取得に関し議決を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	議案第3号	宇部川第5排水区ポンプ場建設(建築)工事の請負契約の締結に関し議決を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
第13回定例会	報告第1号	株式会社のだむらの経営状況に関する書類の提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	報告第2号	平成29年度決算に基づく野田村健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第1号	平成29年度野田村一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第2号	平成29年度野田村国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第3号	平成29年度野田村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第4号	平成29年度野田村農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第5号	平成29年度野田村漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第6号	平成29年度野田村公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第7号	平成29年度野田村簡易水道事業特別会計歳入歳出決算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	認定第8号	平成29年度野田村国民宿舎事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
第13回定例会	議案第1号	平成30年度野田村一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	議案第2号	平成30年度野田村国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	議案第3号	平成30年度野田村公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	議案第4号	平成30年度野田村国民宿舎事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	発議案第1号	私学助成の充実を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可

議員研修

夏季議員大学講座

7月26、27日の2日間にわたり、岩手県町村議会議長会主催の夏季議員大学講座が盛岡市で開催され、村議会からは廣内副議長をはじめ4名が参加しました。

講座の内容は、主にまちづくりに関することで、スーパー公務員と呼ばれた高野誠鮮（じょうせん）氏など計5名の講師からお話を聞き、理解を深めました。

夏季議員大学講座のようす



北部地区町村議会議長会視察研修会のようす



北部地区町村議会議員研修会

7月23日、北部地区町村議会議長会主催による議員研修会及び情報交換会が、岩泉町内などで行われました。村議会からは貳又議長をはじめ12名が参加しました。

岩泉町役場で台風被害からの復旧・復興状況、今後の防災に関する説明を受けた後、(株)岩泉乳業の施設見学などを行いました。

～ 議会の動き ～

6月

- 1日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会
定例総会（八戸市）・・・議 長
- 4日 村文化スポーツプロジェクト
実行委員会総会・・・議 長
- 6日 村観光協会役員会・総会・・・議 長
- 11日 三陸北縦貫道路整備促進期成同盟会総会
（宮古市）・・・議 長
- 12日 下安家漁業協同組合総会・・・議 長
- 17日 出稼ぎ者就労問題打合せ会
及び野田はまなす会総会（東京都）・・・議 長
- 17日 野田はまなす会設立30周年記念祝賀会
（東京都）・・・全議員
- 29日 北奥羽開発促進協議会定例総会
及び設立50周年記念講演会（八戸市）・・・議 長
- 30日 久慈地区支部消防操法競技会出場激励会
・・・議 長

- 20日 国道281号整備促進期成同盟会総会
及び県要望（盛岡市）・・・議 長
- 23日 北部地区町村議会議員研修会
及び情報交換会（岩泉町）・・・全議員
- 26・27日 夏季議員大学講座（盛岡市）・・・議員4名

8月

- 3日 久慈地区市町村議会連絡協議会定期総会
（久慈市）・・・議長・副議長
- 6・8日 北部地区町村議会議長会県要望
（盛岡市ほか）・・・議 長
- 10日 市町村からの要望・・・全議員
- 15日 野田村戦没者慰霊祭・・・全議員
- 23日 国道281号整備促進期成同盟会国要望
（仙台市）・・・議 長
- 30・31日 岩手県町村議会議長会中央研修会
（東京都）・・・議 長

7月

- 3日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会
県要望（久慈市）・・・議 長
- 7日 鈴木俊一さん衆議院議員永年勤続
25年記念を祝う会（久慈市）・・・議 長
- 8日 岩手県消防協会久慈地区支部
消防操法競技会及び結果報告会・・・議 長
- 10・11日 岩手県町村議会議長会第1回政務調査会
並びに政務調査会研修会（盛岡市）・・・議 長
- 17日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会
国要望（仙台市）・・・議 長
- 20日 三陸北縦貫道路整備促進期成同盟会
国要望（仙台市）・・・議 長

あ と が き

山の色づきが一層深まり、秋の気配をより感じるようになりました。今年は全国各地で豪雪や地震、度重なる台風による被害が深刻でした。震災から7年7か月以上経過した今、改めて災害への備え、意識を高めなければと思うこの頃です。（中川）

